

GAP部門

農産局長賞

取組の紹介

南郷トマト生産組合

所在地	福島県南会津郡南会津町宮床宇川久保22-1
認証	JGAP
応募区分	団体の部
面積	30.1ha
構成員	102戸
栽培品目	トマト

GAPに取り組んだきっかけ

- トマトの生産から出荷までのルールを統一し、産地全体で生産工程を管理する体制を構築するとともに、100年続く産地を目指すために産地生産基盤の強化を図ることを目的に、令和元年からJGAP団体認証への取組を開始。
- 令和元年に31農場が認証を取得して以降、段階的に認証農場数を増やし、令和6年8月に組合員全戸での認証取得を達成。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 生産者を65歳以下、新規就農者及びその他の3つに分け、生産組合役員と併せて65歳以下の生産者に対し、先行して認証取得を推進。先行して取り組んだ生産者は、新たに認証取得を目指す生産者に対して助言を行うとともに労働環境整備について支援。
- 化学農薬による土壌消毒に頼らない土壌病害の対策として、抵抗性台木の使用や転炉スラグによる対策を実施した結果、土壌病害の1つである青枯病の発生が減少。
- 労働安全に関するリスク評価は年1回各農場で実施。リスク評価の中で他の生産者にも共通すると思われるリスクがあった場合には、内部監査や研修会等において他の生産者にも共有することで、効率的に生産組合全体でリスクに対する意識改善を図る。



新規取得者を対象とした研修会の様子



野鳥の侵入対策を施した南郷トマト選果場

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

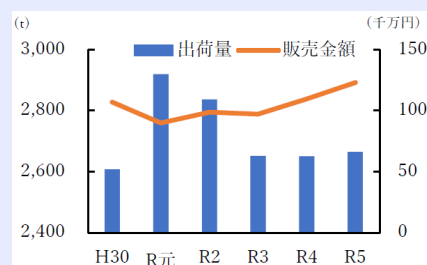
- 効果的な利用による化学農薬の使用回数削減を図り、生産者の約40%で農薬費が削減。

経営の改善に向けた取組とその効果

- 団体の方針・目的を定めたことで、生産組合の目指すシーズンを通した安定出荷の重要性が全生産者に周知されている。それにより生産者の意識が向上し、栽培技術に係る新たな講習会の開催や、新品種の導入が進んだ結果、猛暑による厳しい生産環境が続くここ数年の間でも安定した高単収を維持。
- JGAP団体認証を取得したことにより、経営内容の見える化が進み、就農後も安定した出荷が見込め、経営の早期安定が可能であることを就農希望者に対してアピールすることが可能に。新規就農者の確保に役立っている。

波及効果

- GAPの認知度向上を目的に福島県が開催した「ふくしま。GAPフェア」において、GAP認証農産物として南郷トマトを提供。



出荷量と販売額の推移



南郷トマトを使用した料理
(ふくしま。GAPフェア)

青森県立柏木農業高等学校

教育方針に農業のグローバル化に対応できる人材育成を掲げており、GAPの実践教育を通して、国際的な感覚や地域産業の担い手としての資質・能力を身に付け、地域社会に貢献できる人材を育成。

代表者名：小田桐 世長

所在地：青森県平川市

認証：GLOBALG.A.P.(令和元年)

GLOBALG.A.P.(令和2年)

面積：8.01ha

構成員：20名

品目：リンゴ

米

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた継続的な取組】

- 2～3学年混合でチームを編成し、生徒自らが労働効率性やリスクに対する評価・改善等についてディスカッション。異学年混合でチーム編成することで、GAPの取組を継承。
- 生徒自身が施設環境のリスク管理計画を作成・実践することで、作業環境の衛生保持や安全性の確保を実現。

【生産効率性向上に向けた取組及び効果】

- 作業手順を明確に体系化することで、作業の効率化や生徒の意識改革が進んだ。
- 資材・農薬の在庫量をデータ管理することで農薬等の使用期限切れがなくなり、コストが減少。

【経営改善に向けた取組及び効果】

- 企業と連携し、台湾へのリンゴ輸出。シンガポールへの米輸出を実現。
- 「柏農米」がふるさと納税返礼品に採用。

【人材育成活動】

- 海外研修時に、りんごの輸出先である台湾において、青森県産りんごに関するアンケート調査や市場・嗜好調査を実施。



GLOBALG.A.P.書類審査



井戸水の水質検査の様子



海外研修にて市場・嗜好調査を実施

ホームページ・SNS等

青森県立柏木農業高等学校ホームページ <https://www.kashiwagi-ah.asn.ed.jp/>

宮城県農業高等学校

令和3年に宮城県内高校初のASIAGAP認証を取得。天敵を活用した総合的防除を導入実践し、地域においてIPMのモデル圃場としての役割を担う。

代表者名：浅野 伸一

所在地：宮城県名取市

認証：ASIAGAP(令和3年)

面積：4.212a

構成員：29名

品目：トマト

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた継続的な取組】

- 生徒がフロー図、ハザード一覧、手順書を一体的に活用し自ら栽培管理学習を行うことで、GAPの継続的な取組が実現。

【生産効率性の向上に向けた取組と効果】

- 収穫調整作業に関するマニュアル、栽培手順書等の活用により、実習の理解度向上。
- 栽培計画と生産実績、マスバランスの確認により、栽培管理を改善。

【経営改善に向けた取組及び効果】

- IPMを導入し、天敵農薬を使うことで薬剤散布に係る薬剤費及び労働時間の削減を実現。

【地域内外への波及効果】

- 薬剤抵抗性の発達が課題となっている害虫について、IPMを活用して教育機関としての実証調査を行い、HP等により情報発信。
- 食品加工業者との連携授業やGAP認証を取得したトマトの加工品開発に挑戦。

【地域の牽引役としての貢献】

- GAP公開審査会や指導者養成研修会を開催し、国際水準GAPの理解増進及びGAP指導員の指導力向上を図る活動を実施。
- IPMの実証ほとして地域農業に貢献。



ASIAGAP認証審査を受審



天敵製剤を活用したIPM技術導入実習



GAP認証取得したトマトで漬物を試作

ホームページ・SNS等

宮城県農業高等学校ホームページ <https://miyanou.myswan.ed.jp/>

株式会社そば研

耕作放棄地の解消を目指し、平成10年、稲作農家15戸がそば栽培を開始。平成24年に法人化し、3haから始まったそば栽培は現在約320ha(委託会員600戸)まで拡大。面積拡大する中、JGAP認証や秋田県HACCP認証を取得し、生産・品質管理体制を強化。

代表者名：藤原 洋介

所在地：秋田県雄勝郡羽後町

認証：JGAP(平成31年)

面積：320ha

構成員：5名

品目：そば

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた取組】

- 作業マニュアルを作成し、部品管理方法やリスク等を共有することで、労働環境の安全性が向上。委託組織にも同様の作業を徹底。

【生産効率性向上の改善に向けた取組とその効果】

- 農業機械の管理責任者を明確にし、マニュアルに基づく点検やメンテナンスを行うことで、作業トラブルが減少。
- 保管場所が整理整頓され、生産効率性が向上。
- 栽培記録をデータ化し、データを活かした品種選定や作型を導入したことで収量が安定。

【経営の改善に向けた取組】

- 現地視察や東北そばフォーラムへの参加による従業員の知識習得。

【地域内外への波及効果】

- JGAPやHACCPの取組を秋田県内のそば生産者団体に情報共有することで県産そばのブランド力向上に寄与。
- 県内外からの視察受入やHP等で取組を広く紹介。



外部委託先 点検実施記録表

委託先名称	点検項目	点検結果	点検者(氏名)	点検日	備考
秋田県農業センター	1. 作業マニュアルの作成・更新状況	○	藤原 洋介	2020.01.15	
秋田県農業センター	2. 労働環境の安全性確保	○	藤原 洋介	2020.01.15	
秋田県農業センター	3. 農業機械の点検・メンテナンス	○	藤原 洋介	2020.01.15	
秋田県農業センター	4. 生産記録のデータ化	○	藤原 洋介	2020.01.15	
秋田県農業センター	5. 品質管理体制の強化	○	藤原 洋介	2020.01.15	

外部委託先 点検実施記録



記録帳簿の保管



JGAP認証取得農場

ホームページ・SNS等

(株)そば研ホームページ <https://www.sobaken.co.jp/>

姫城中川ファーム株式会社

家族経営の姫城中川ファームは、全国ブランドの「米沢牛」を常時200頭飼養。米沢牛枝肉共進会でチャンピオン賞を作出するなど高い技術力を誇る。令和2年にJGAP認証を取得し、米沢牛生産農場で唯一のJGAP認証取得農場となった。

代表者名：中川 剛
所在地：山形県西置賜郡白鷹町
認証：JGAP(令和2年)

頭数：肥育牛約200頭
構成員：3名
品目：肉用牛

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた取組】

- 月1回、複数の外部専門家を構成員に含む農場HACCP・JGAP支援チームを集め、認証の維持・更新審査等に向けた検討会を開催。
- 作業安全研修や敷地内での速度規制看板の設置等により、作業事故の防止意識が向上。
- 一つ一つの作業を検証し作業をマニュアル化したことで、作業が効率化された。

【生産効率性向上に向けた取組及び効果】

- 農場立ち入り者の記録等基本的な衛生対策の徹底により家畜伝染病等の発生を防止。
- 牛の体調不良時に、過去の治療履歴から適切に処置することで早期回復につながっている。
- 飼養管理の徹底により、牛の事故率(令和3～令和5年度)は、0.5%と山形県内の一般的な事故率4%を大きく下回っている。

【経営改善に向けた取組及び効果】

- JGAP認証を取得による有利販売。

【地域内外への波及効果】

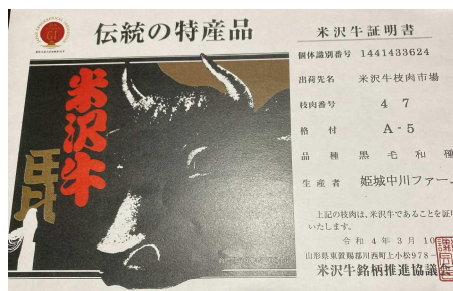
- 地域の畜産農家にGAPの取組やJGAP取得の有用性に係る情報を共有。
- 県外の和牛生産者の視察を受け入れ、JGAPの活用を指導。



検討会の様子(月1回開催)



速度規制看板の設置



米沢牛証明書(GI、農場HACCP、JGAP、non-GMO飼料の使用が明記)